

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000309		
法人名	医療法人 常念会		
事業所名	グループホームきのみ 楠		
所在地	豊橋市石巻本町字狭間10-8		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・緑に囲まれた立地を生かし自然との触れ合いを大切にしています。 ・庭があり、そこでゲームをしたりランチをしたり、気候のいい時期にはバーベキューを楽しんでいます。 ・庭の横に畑を作り、入居者様と一緒に季節の野菜を育てています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2392000309-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、恵まれた自然環境を最大限に活かし、天気の良い日は毎日手入れの行き届いた広い庭に出て新鮮な空気に触れたり、家庭菜園で季節の野菜を栽培をすることを楽しみにしている利用者もいる。外出する機会を多く取り入れており、四季折々を感じさせる公園等に出掛ける他にも、市内の公共施設に集まって開催された他のグループホームとの輪投げ大会で交流を企画する等、活動的でメリハリのある生活を維持させる様にしている。母体は医療機関であるが、他の複数の医療機関とも連携しており、利用者に合わせて医療面での支援が行われている。また、ホームでは毎週のカンファレンスが行われ、利用者一人ひとりの意向等の反映につなげており、一日を通して利用者は各部屋に閉じ籠る事もなくリビングで過ごす時間が多く、その人らしい暮らしが継続出来る様に取り組んでいる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年2月26日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務室に掲示し職員全員で実践に努めている。	事務室に理念を掲げて関係者に周知を図り、利用者が穏やかに安心して過ごせる環境を作りだすようにしている。採用された職員への理念の説明やスタッフ会議で理念について触れる機会が持たれている。	理念がホームの活動を通じて実践されているか継続して確認することで、理念の浸透と見直しにつながる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭りへの参加、町内会への加入、近くのスーパーへ買い物に行ったり床屋を利用したりしている。	地域の廃品回収や催しに参加し地域との関係づくりや、運営推進会議にも地域関係者の出席が得られており地域との情報交換の場となっている。また、近隣の中学生の職場体験の受け入れを行っており交流の機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度は地元中学生の職業体験の生徒の受け入れを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度会議を開催し、地域の方、介護相談員、ご家族様等から意見を頂戴し、サービスの向上に努めている。	地域の方や家族の参加もあり、ホームの現状や利用者の暮らし振りを詳細に報告している。また、今年度の取り組みとして、会議後にホームの避難訓練を見てもらう時間を設けており、ホームの取り組みを知ってもらう機会につなげている。	地域包括支援センター職員の出席について、都合が合わない事が多いため、次年度については、関係者との日程調整等、出席が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の報告、介護相談員の受け入れ、その他必要に応じて長寿介護課等に相談している。	運営推進会議等の報告書を市に定期的に持参し、情報交換等につなげている。また、市や地域包括支援センターの研修会等に参加する他、介護相談員も月に一度の訪問で実情を見ていただき情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事故防止のため玄関と裏口の施錠はしているが、その他の制限はしておらず、建物内は自由に行動できる。	身体拘束は行わない方針であるが安全上の理由で玄関のみ施錠している。利用者が外出する気配があれば、一緒に外出している。また、法人の委員会を通じた勉強会等で身体拘束について話し合いがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会への参加等、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	理解している職員としていない職員がいる。それについて学ぶ機会を中々提供できない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書を用いてできる限り丁寧な説明を心がけている。説明後にわかりにくいところや疑問などを伺うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	全てのご家族様に参加いただいているわけではないが、運営推進会議にて意見や要望をいただいている。また、家族会の開催などスタッフ、入居者様、ご家族様が交流を図れる機会を設けている。	定期的な家族との交流会を企画する他、来訪時に家族との面談をする機会を設けており、利用者の暮らし振りなどを報告し意見交換を行っている。また、毎月のホーム便りで行事や催しを家族に報告している。	利用者に関するホームからの情報発信について、関連ホームとの検討を行っている。担当制を活用する等、利用者に関する報告を定期的に行いながら、家族との関係作りにつながる事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議又は個別で意見を言ってもらっているが、運営に反映できているとは言い難い。	毎月、ユニット合同で会議を行う他、毎週の利用者毎のカンファレンスを行っており、職員間で意見交換を行っている。また、管理者による個別面談を随時行って意思の疎通を図るとともに、各種行事は役割分担で意識の向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則に基づいて行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修会等への参加。又、現在OJTの活用を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	愛知県認知症グループホーム連絡協議会へ加入しており、輪投げ大会を行ったり、施設同士でイベントに参加し合ったりして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期段階で信頼関係が築けるよう努めてはいるが、実際は時間がかかる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	要望などを伺ってはいるが、やはり足りないことが多いと感じる。もっとお互いに相談を密に取り合える関係づくりに努めていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	申し込みの段階で他のサービス利用も視野に入れた相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩としていろいろ教えていただいたり、時には頼られたり、家族や友人の様に冗談を言い合ったりできるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	中々面会に来ていただけないご家族へも近況報告を月1回程度は行うよう報告方法を検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時等居室でゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	利用者の中には、近くに住む知人や入居前からの関係の方等の来訪があり、継続的な交流が維持されている。毎月、全員で昔から利用していた喫茶店やレストランで外食の機会がある他、家族と外出し馴染みの場所や墓参りに行く機会がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士が自然に関われるよう努めている。トラブルになりそうな時には仲介し、良好な関係が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居となった後でも相談など気軽に訪ねて来ていただけるような関係作りに努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話等からも本人の気持ちや思いを汲み取れるよう努めている。	担当制も活用しながら職員が日常的に利用者の個々の思いや意向の把握に努めている。また、ホームでは毎週のカンファレンスが行われており、職員間で個々の情報を共有する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に話を伺って把握するよう努めているが不十分なため、入居後もご本人様やご家族様に随時伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	現状や変化についてカンファレンスや申し送りを通じて職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	中々話を伺うことが困難なケースもあるが、できる限りご家族様、ご本人様の意向を伺い、それを基にスタッフ間で意見を出し合いより良い介護計画となるよう努めている。	毎週のカンファレンスでの確認を通じた毎月のモニタリングが行われており、介護計画の見直しにつなげている。また、介護計画の内容を記録用紙に貼付することで職員が目を通しやすい様に工夫しており、日常的なチェックにもつなげている。	介護計画の見直しに至る期間を現状の介護保険の有効期間から、より短期間に行うことで、利用者家族との面談の機会を増やしていく取り組みにつながる事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録表や申し送りノートに日々の様子や気づきを記入してスタッフ間で共有しているが、介護計画に沿った記録があまりできていなかったため、現在記録方法の改善を図っている最中である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な範囲で柔軟な対応に努めているが、もっと新しい取り組みについて話し合っていく必要があると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事への参加やボランティアの受け入れ、近所の方のご厚意等で非日常を体験する機会を得られているが、まだまだ地域資源を活かしきれていないのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医が月に1回又は2回来て下さり健康管理をしてきている。また、ご家族の希望により、もともとのかかりつけ医を受診している方もいる。	ホームでは、運営母体の医療機関の他にも複数の協力医療機関と連携しており、利用者の合わせた医療面での支援につなげている。また、ホームには常勤の看護師が勤務しており、日常的な健康状態のチェックが実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設に看護師が常駐しており、何か変化があれば看護師へ報告し、受診等の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際の病院との情報交換は行っているが、病院関係者との関係づくりといったところは今後の課題である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	指針は定めてあるがどのようにケアに当たっていくか話し合いができていない。	看取り支援にはついては、関連する医療機関との連携で対応している。利用者の状況に応じた生活の場を提供するようしており、その都度家族と話し合い理解を頂くようになっている。重度化対応として法人で研修を行っており、対応方法を周知させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内で定期的に勉強会を行い、心肺蘇生の手順やAEDの使い方について学ぶ機会を設けているが、骨折時や止血方法等について学ぶ機会はありません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行っている。地域との協力体制については、今後も運営推進会議等を通して築いていきたい。	年2回、昼夜を想定して避難訓練を行っており、防災の業者の協力を得た通報装置の確認も行われている。備蓄品も食料、水等を7日間程度保管している。また、災害対策委員が中心となり防災に向けた話し合いがあり防災意識を高めている。	災害時には、近隣の方の一時的な受け入れ等、ホームでも協力できる事を想定し、地域の方との相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人ひとりの性格の理解に努め、尊厳を損ねないような対応を心がけている。	利用者一人ひとりに合わせた個別ケアを考えており、接遇やプライバシーの確保に関する研修も行っている。また、日常的にも言葉遣い等で気になった際は、管理者が注意を促し改善につなげるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で本人の希望や思いを表していただけるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れの中で、体調や気分に合わせて、できる限り自由に生活できるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の準備等できるだけ自己にて決めていただくようにしている。 今年度は化粧ボランティアの方に来ていただき、女性の方々にはメイクアップを楽しんで頂いた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作り、おやつ作り等に参加して頂くことで楽しみや役割を感じて頂いている。又、月に1度外食に行ったり、気候のいい時期には庭でバーベキュー等も楽しんで頂いている。	食事については、週3日の昼食を外部業者より提供を受ける日を設けているが、ホームで調理を行い日には、利用者も調理や片付け等、出来る事に参加している。また、日常的なおやつ作りや季節の行事等に合わせた食事作りも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食食事量を記録し、その方に合った量の提供に努めている。また、水分摂取量の少ない方には、個別に表を作成し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎月歯科衛生士さんに来所していただき、口腔内の衛生状態を確認してもらっている。又、ケア方法の指導をしていただき日々のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、個々に合った誘導を行えるよう努めている。	職員は、利用者個々の排泄状況を記録し、1日4回の申し送りで確認し情報を共有している。タイミングを見てさりげない声かけでトイレへの案内や、医療面での連携も加え、利用者の中には紙パンツから布パンツに改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日体操を行い適度な運動を心がけている。また、乳酸菌飲料や水分摂取を促すなどし便秘予防に努めている。それでも便秘になってしまう方には、医師、看護師と相談し、薬にて排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴は毎日実施している。スタッフの体制的に1日に入れる人数には限りがあるが、時間内で希望のタイミングで入浴して頂いている。又、入浴剤や季節のしょうぶ湯、ゆず湯等も楽しんで頂いている。	ホームでは1日おきの入浴であるが、希望により毎日の入浴も可能であり、実際に入浴している方もいる。重度化した利用者には職員2人での対応も行われている。また、入浴剤や季節の入浴も取り入れており、入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	季節に合わせてリネンや室温の調節を行っている。又、その方の体調やリズムに合わせて適度な休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人カルテに薬剤情報を綴じてあり、スタッフ全員が確認できるようになっている。又、個別に施設看護師が薬表を作成し、常時確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ADLに合わせ希望を取り入れた役割を担っていただいている。また、日々のコミュニケーションから趣味や嗜好を伺い、レクリエーション等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブや買い物、喫茶店等、戸外へ出かけられるよう努めているが、1人ひとりの希望に沿った外出支援は中々できない。	天気の良い日は毎日、自然に囲まれた戸外に出て外の空気に触れている。四季折々の行事を取り入れながら定期的に外出する他、外食の機会も設けている。また、市内の公共施設に出かけ、他のグループホームと輪投げ大会等の交流もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には施設で管理しているが、自己にて財布を所持されている方もおり、能力に応じて買い物時に自己にて支払っていただく等の支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取りつぎや、希望に応じて手紙でのやりとりの支援等を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾りつけをする等、明るい環境づくりを心がけている。また、季節、天候に合わせ室内の温度や湿度を調節している。	自然環境が豊かで庭も広く家庭菜園を楽しむ機会を設けている。リビングはゆったりして天井が高いことに加え、窓も大きく採光が充分に取れて開放感がある。また、リビングには季節の飾り付けや利用者の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TVの前にソファを設置しくつろいで頂いている。又、庭のベンチで外気浴を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様、本人様と相談の上、馴染みのもの、使い慣れたものを持ってきていただくなどし、安心できる空間作りに努めている。	居室内は、備え付けベッド以外は持ち込みで、生活に必要な思い思いの調度品が持ち込まれ、利用者に合わせた居室づくりが行われている。また、利用者により、絵画等の作品作りに打ち込む為、書斎部屋のようにしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全を考慮し廊下や浴室等に手すりを設置している。また、トイレや居室の場所がわかりやすいよう工夫している。		